

話す・書くにつながる!

日本語読解

小野恵久子 遠藤千鶴 大久保伸枝 山中みどり


初中級



N4終了～
N3レベル
中級への橋渡し

話したくなる・調べたくなる13の読解素材

社会で役立つ日本語表現力が付く!

各課の目標・指示・ (ポイント)の翻訳(英・中・ベトナム語)の
ダウンロードサービスあり

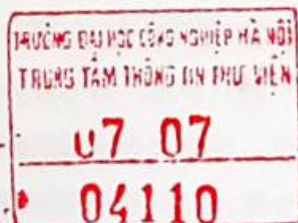


話す・書くにつながる!

日本語読解

小野恵久子 遠藤千鶴 大久保伸枝 山中みどり

初中級



はじめに

この『話す・書くにつながる！日本語読解 初中級』は、既刊の『話す・書くにつながる！日本語読解 中級』『同中上級』シリーズの前段階にあたるものです。特に中級への橋渡しということを意識しました。

私たちは専門教育における読解で最終的に必要とされるのは、未知の文章に出会ったとき内容を把握し読み進める力、そして、その文章について自分なりの見方や視点を獲得していく力をつけることだと考えています。これまでの2冊も、上記のような考えのもと、作成しました。

初中級レベルの読解の場合、語彙や文法がコントロールされた300字から800字程度の書下ろしの文章を使い、文型や漢字語彙を段階的に提示して進めるのが一般的です。このようなボトムアップの進め方はとても大切です。

それを踏まえた上で、本書では初中級学習者であっても母語での考える力を生かして、内容的に読み応えのある生の読み物、生に近い読み物に挑戦し、読解ストラテジーを獲得することを目指しています。

もちろん、初中級段階ではさまざまな読みの制約がありますが、本書では内容理解を促すため、いくつかの工夫をしました。未習語彙が多い課は、読みに入る前にクイズを設け、負担を減らしました。また、読むこと自体に慣れていないことが多いので、本文を段落に分けて、順を追って問いを設け、内容把握がしやすいようにしました。設問も、明示されていることを自分の言葉で言い換えたり、文章や段落内のことをパラフレーズしたりして、内容を自分なりに再構築できるように立てています。

さらに、既刊のテキストと同様に設けた**発展**という項目では、課のテーマに関連する幅広い知識を求めて調べ、意見を出し合います。自分や自分の所属社会に置き換えて考えていくという作業を行うことによって、さらなる内容把握を促すようにしています。

このような方法で読みを行うことによって、本書が学習者の読解ストラテジーを養成し、また、視野を広げ、学習者自らが自分の見方を獲得するのに役立つことを願っています。

著者一同
ちよしやいらどう

本書の特長と概要

I 対象・レベル

大学や大学院、専門学校、日本語学校などで学ぶ学習者を対象としています。また、社会で働きながら自学自習している人にも適する内容となっています。

具体的なレベルとしては、初中級の学習者が対象です。おおよその目安として以下を参照してください。★のマーク数で難易度を表しています。

- ★ : N4終了レベルでN3を目指している人
- ★★ : N3の勉強を始めている人
- ★★★ : N3終了レベルでN2を目指している人

II 本書の特長

「読み／考え／調べ／表現する」読解教材

本書では、まず目的を持って読むということを大切にします。そして、自分達の内容把握について話し合い、考えるという過程を踏み、正確な読みに導きます。また、調べ活動も行い、筆者の視点とともに自分の見方を振り返り、再度自分の考えを吟味し、まとめ、表現することまでも視野に入れていきます。

本書では、これらに重点をおくことにより、学習者を正確な内容把握、そして、現代社会の普遍的な課題への自分なりの見方を獲得していくことへと導きます。これらの能力が大学や大学院での教育、また社会で求められている力であると考えます。

1. “読み”— 選択肢に頼らずに内容が把握できる問い

選択式の読解の場合、選択肢との一致点（同じ言葉など）を教材の中を探したりする作業を行います。この作業では、言語の表層的なレベルに関心がいき、教材内容の意味把握まではなかなか行えない場合があります。本書では、この問題点を克服するため以下のことを行います。

- ・できるだけ選択問題を少なくし、自ら考えて答えることによって内容を把握できるようにする
- ・文章や段落単位のパラフレーズ・要約などを多く設け、全体の大意が取れるようにする
- ・明示されていないことをイメージ化できるようにする

これらの作業によって、教材内容をより正確に意味把握し、再構築できるように意図しました。

2. “考え” “調べ” “表現する”

一教材についての何らかの視点を持つことを導く **発展**

(1) 目的

本文理解のあと、本文で論じられた問題を学習者自らのものとして捉え、考えを深め、何らかの自分の視点が持てるように工夫しました。**発展**を通して、筆者の視点を違う角度からも見られるようになっていきます。具体的には、ペアやグループ活動、調べ活動を通して意見交換をし、自分の意見を振り返って自己モニターし、最終的には自分の意見をまとめることを目的としています。

(2) 調べ活動のタイプ

調べ活動には2種類のタイプがあります。

- ・本文そのものの内容について詳しく調べる
- ・本文内容から発展し、その類似した内容について調べる

いずれも、調べ活動を通して自分自身の見方を広げていくこと、また、筆者の意見を客観視していくことを目的としています。そして、その自分の見方について、さらにほかの学習者と話し合うことにより、自分自身の考えの根拠や理由について振り返ります。

この作業をするなかで、本文への理解、当初の感想や意見への内省という過程を踏みます。そして、結果として自分の意見を再構築し教材への何らかの視点を持つことを目指しています。

社会の多様な側面・課題を知ることができる－8つの分野の教材提供

本書はほとんどの教材が書籍や新聞記事などからの抜粋です。文系から理系まで8分野、「コミュニケーション」「学習」「生き方・人生」「仕事」「メディア」「社会」「環境」「科学」の題材を集めました。専門教育の基礎となる幅広い知識や教養、学問の素養が養えるよう意図しました。同時に21世紀を生きる私たちが共有する課題を論じているものを多く取り上げ、内容重視の読解力の養成とともに学習者が社会の多様な側面や普遍的な問題に触れることをねらいとしています。

一般教養的な社会の物事や概念の捉え方、考え方などを養い、専門教育における学問的態度を鍛えるという意味でも効果が期待できます。

自力で読むための工夫

1. 段落分け

多くの課で段落を提示して短い範囲で内容把握できるように問いを設けました。この場合の段落とは意見文や作文で提出される序論、本論、結論のような典型的なものではありません。読み手によってさまざまな分け方が可能ですが、本書では学習者が読み進められる長さを意識し、意味のまとまりを考えて段落分けをしました。

2. レベル分け

<★レベル>

文章の長さが300字程度の短いものから800字程度のちよつと長めのものまで、学習者にとって身近で具体的な題材を取り上げ、語彙などもわかりやすいものを選びました。

まとまった文章を読むのは初めてという学習者も多いため、一字一句に捉われず、キーワードなどを押さえながら全体を把握する練習に重きをおいています。本文に明示されていることを確認したり、また、本文で言われていることをほかの言葉で言い換えたりして文脈から内容を捉える練習をします。そして、本文中のブランクには何が入るのかを自分の言葉で考えます。段落ごとの要旨把握なども入れ、全体として筆者の意見がつかめるようにしてあります。

<★★レベル>

文章の長さが600字から800字程度のものを扱っています。題材は身近なものから環境についてなど幅広い範囲のものを取り上げています。

主語がはっきり明示されていない文章では誰が何を言っているのかなどについて細かく分けて質問することによって理解を導くようにしました。また、会話体の文章では自分の言葉で言い換える作業を通して内容把握ができるようにしました。

長文に慣れていくための方法として、段落単位で内容を把握していくことを多く取り入れています。まずはその段落で何を言っているのかを掴み、キーワードを手掛かりに筆者の意見をまとめる作業を通して、結果的にテーマがわかるようにしてあります。

<★★★レベル>

中級レベルへの橋渡しとして長文が多くなります。題材も普遍的なものが多いため、語彙を含め全体的に難しく感じるかもしれません。

エッセイなど筆者独特の言葉の使い方や言い回しなどもありますが、自分の経験と結びつけて考える質問なども用意し理解を助けるようにしました。また、内容理解を助けるため、難しい箇所については主要な情報と例の部分に分けて提示し、整理できるようにして

あります。さらに、段落ごとのまとめを課したりして最後まで読めるように配慮しました。
筆者の考えを理解したうえで、自分の意見が持てることを目指します。

アイコンを入れ指示をわかりやすく表示



非明示的な設問にはこのアイコンが表示してあります。自分で考えて答えるというアイコンです。



意見交換するものには、このアイコンが表示してあります。ほかの人々と話し合うというアイコンです。

IV 課の構成

本書は以下のような構成となっています。

目標

その課で何をするのか、ポイントを明確にしています。

話してみよう

自分の経験や例と結びつけて考えられるような指示を出し、本文を学習者が興味を持って読むことができるようにしています。

クイズ

課によっては未習語彙が多いものもあります。学習者の負担を減らすため、未習語彙の中で本文理解に欠かせないものをクイズ形式にして学べるようにしました。



本文を読むときに何に注意をして読めばいいのか、手掛かりになるような指示を出しています。

内容確認

本文を読んだ後で「話してみよう」で出た意見や、「！」で考えたことをベースにして、自分の力で内容を整理していきます。本文に明示されていることを問う質問から、明示されていないことを問う質問まで、順を追ってできるように配列してあります。

発展

本文内容と関連し、それを深められるように、本文での筆者の主張や投げかけを振り返る課題や、自分と関わりがあるものとして考えられる課題が設けてあります。

※ **目標**・**話してみよう**・**ポイント**・**発展**は、翻訳（英・中・ベトナム語）がダウンロードできます。ダウンロード用URL：<https://www.alc.co.jp/dl/>

V 漢字のルビと語彙リストの選定基準

漢字のルビ

★、★★マーク すべての漢字にルビを振りました。

★★★マーク JLPTのN3相当以上の漢字にルビを振りました。

語彙リストの選定基準とレベル

学習者が実際に何かを読む場合、大切なのは未習語彙がある程度あっても必要以上に辞書や語彙リストに頼ることなく読み進め、理解に到達する方法を獲得することだと考えます。漢字の意味や既習の語彙から理解し文脈をとらえながら読み進めていく習慣をつけることも重要なストラテジーのひとつになります。

この点から考えて、複合語や熟語の扱いについては漢字の意味や動詞の意味から推測できるものは、JLPTに照らし合わせて原則取り上げないというようにしました。以下、取り上げていない例をご参照ください。

例：細長い一級外だが、細い、長い、ともにJLPT N5相当なので推測可能

笑い疲れる一級外だが、笑うはJLPT N4相当、疲れるはJLPT N5相当なので推測可能

大声一級外だが、大きい、声、ともにJLPT N5相当なので漢字の意味から推測可能

店内一級外だが、店はJLPT N5相当、内はJLPT N4相当なので漢字の意味から推測可能

人々一級外だが、人はJLPT N5相当なので推測可能

すべてのレベルで、JLPTのN3相当の必要と思われる語彙を取り上げました。ただ、★★、★★★と難易度が増すにつれて、明らかに文脈で意味がとれるものについては外してあるものもあります。

なお、本文理解に欠かせないと思われる語彙に関しては注釈をつけました。注釈で取り上げた語彙の翻訳は、語彙リストについています。

本書をお使いになる先生方へ

I 授業における教師の役割

授業では、学習者各自が読解文に向き合ったあと、今持っている知識を基にして想像力や推察力を働かせて設問に取り組むように導きます。そのあと、ペアやグループによる活動を行い、学習者自身がお互いに学び合い、自ら気づいていく自律的な学習を目指します。

教師の役割としては、一方的に知識や答えを教えるのではなく、学習者の自律的な学びを支援するものであると考えます。具体的にはクラス全体で課題について何でも言い合える自由な雰囲気を作り、**発展**の活動が円滑に進むように配慮し、適切なアドバイスをを行います。そのことにより、学習者が間違いを恐れずに自分の「読み」を出し合い、相互学習や協働作業の中から他者の視点に気づき、自らの思考プロセスを振り返り、理解が深化していくように導きます。

II 時間配分と授業の進め方の例

時間配分

全体の時間数としては、1コマ45分から50分として4～5コマを想定しています。

内容確認までを、2～3コマの授業と考え、**発展**部分で、さらに1～2コマ使います。

話し合いの部分は授業で行い、課題の部分は宿題という考え方でも良いでしょう。その結果を持ち寄り、個人やグループで課題を発表し合い、ほかの意見も参考にしながら自分自身の考えを深め、まとめることを目指します。

授業の進め方の例

前半2～3コマ

初中級学習者は日本語の文章構造に慣れていないため、一字一句追って読みがちになり全体把握ができにくいという傾向があります。課のタイトルや表紙のイラスト、**話してみよう**、**クイズ**、**!**も丁寧に追って、読み取りの目安を示して何の読解なのかをはっきりさせて導くことが必要です。

話してみよう

ここでは、クラス全体で読む準備をしてみてください。その分野、タイトルへの背景知識の活性化、イメージの喚起を行います。

クイズ

未習語彙が多い課には語彙クイズがあります。少しでも読みの負担を減らすため、イラストなどを使ったクイズ形式で語彙の理解を深めることがねらいです。ほかの人と話し合ったり調べたりするように指示し、これからの読み物への期待が膨らむようにします。



書かれている指示を考えながら、自力で一人読み（黙読）を行い、わからないところはアンダーラインを引き、前後の文脈や漢字の意味などから推測するように指示してください。また、接続詞などに注意し、文脈全体の流れをとるように指示します。

内容確認

- (1) 読み終わった人は、各設問を解くように指示します。解く時間は学習者の様子を見ながら判断してください。その後、数人の小グループかペアで、話し合い活動を行います。この活動で、設問の答えについて話し合います。教師は活動がうまく進むように援助します。答えが異なっている場合は、どうしてそうなるのかお互いに検証し合い、どの部分の認識が違っているから答えが異なってくるのかに焦点をあて、意見を出し合うように導きます。
- (2) 小グループあるいはペアの話し合いが終わったら、クラス全体で答えを出し合います。設問への答え方として、どのような答え方がいいのか全体で話し、答えへのプロセスを振り返るようにします。教師はその過程がスムーズに進むようにアドバイスをします。
- (3) 書かせる問題が多いので、語彙や文法の間違ひもあると思いますが、あくまでも内容把握に重点を置くようにします。また、答えは解答と同じ必要はありません。内容が把握できていれば、さまざまな答え方があって良いので、柔軟に考えてください。

発展

- (1) 課題について、グループやペアで話し合ったり、調べ活動をしたりします。これは、話し合いの部分をクラスでし、調べ活動の部分は宿題にすることになれば、時間的に可能です。この作業をするなかで、本文で提起されている問題やテーマについて、さらに学習者自身の問題として考え、自分なりの見方を持てるようになることを目指します。
- (2) 調べ活動の宿題だった点について、それぞれの意見を発表し、お互いの質疑応答なども行います。そのあとで、自分の意見をまとめる作業を行います。時間内にまとめることが難しければ、宿題にして提出させても良いでしょう。

ISBN978-4-7574-3085-3
C0081 ¥2000E



定価 本体2,000円+税

- | | | |
|-----|-----------|--------------------|
| 1課 | コミュニケーション | 泣かす側 悪い 思い込みでは |
| 2課 | 科学 | 植物もストレス解消？ |
| 3課 | メディア | シュレッター |
| 4課 | 仕事 | 「うまい」「へた」よりも大切なこと |
| 5課 | 科学 | ロボットとの付き合い方、おしえます。 |
| 6課 | 学習 | スタディ・ツアーのすすめ |
| 7課 | 社会 | ぜんぶ無料 スーパー開業 |
| 8課 | コミュニケーション | モードが違う |
| 9課 | 環境 | アマゾンの魚がとれた！ |
| 10課 | 生き方・人生 | 笑わなくていい |
| 11課 | 仕事 | 「聞こえないこと」が強み |
| 12課 | 学習 | 貝の化石を採りに行く |
| 13課 | メディア | 「情報通」は知性か |